

作業療法学科教員の鈴木渉です。第54回北海道作業療法学会が6月22日から23日に千歳市で開催され、口頭発表を行いました。発表演題は『本校の通所または訪問リハビリテーション臨床実習に関する臨床実習指導者へのアンケート調査』です。通所・訪問リハビリテーション臨床実習は、地域包括ケアシステム（要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う体制）の強化に資する高度医療人材を育成することを目的に新たに追加された臨床実習です。

本校では昨年度よりこの臨床実習を開講したため、その実践報告に関する演題発表を行いました。複数の参加者から関心が得られ、有意義なディスカッションができました。



鈴木 渉（本学作業療法学科教員）

また、この学会では4名の卒業生が発表を行いうち2名の発表を聴講しました。いずれも地域での取り組みについて素晴らしい発表でした。



高橋勇葵（16回生）さん

千葉望（17回生）さん

多くの発表者の中から、17回生の千葉望さんが優秀演題賞を受賞されました。おめでとうございます！このように卒業生の成長を感じられるのも教員としての楽しみの一つです。私もますます頑張らなければいけないと身の引き締まる思いでした！



千葉望（17回生）さん

この他にも卒業生や元同僚、所属する学会の仲間や実習でお世話になっている先生方など、様々な人との再会がありました。この出会いが学会の醍醐味だと思います。学会終了後に元同僚の片桐先生と写真を撮りました。右側の写真は今回受賞された千葉望（17回生）さんと高橋翔大（18回生）さんです。



皆さんお疲れさまでした！